

A部門小学部 2年 「I・J」

自立活動「実態把握から具体的な指導内容まで」までの流れ図

自立活動の目的	自立活動の内容	自立活動の目標	自立活動の達成状況	自立活動の評価
<p>自立活動の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立活動の目的は、児童が主体的に学習し、学習の意欲を高め、学習の成果を自ら評価し、学習の振り返りをすることである。 	<p>自立活動の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立活動の内容は、児童が主体的に学習し、学習の意欲を高め、学習の成果を自ら評価し、学習の振り返りをすることである。 	<p>自立活動の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立活動の目標は、児童が主体的に学習し、学習の意欲を高め、学習の成果を自ら評価し、学習の振り返りをすることである。 	<p>自立活動の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立活動の達成状況は、児童が主体的に学習し、学習の意欲を高め、学習の成果を自ら評価し、学習の振り返りをすることである。 	<p>自立活動の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 自立活動の評価は、児童が主体的に学習し、学習の意欲を高め、学習の成果を自ら評価し、学習の振り返りをすることである。

<ケースの実態（特徴的な○長所、●課題）>

- 自分から挨拶する時がでてきた。
- 友達に自分が使っている玩具を渡せるようになった。
- ひらがな表で教員が言った音を指差することができる。

- 要求が通らない、予定と違うことがあると自分の頭を叩いたり、泣いたりすることがある。
- 自分の気持ちや要求を表現する手段がない。

<指導目標>

- ・ひらがな・絵カードの理解を深める。
- ・意思や気持ちを表出する場面を増やす。

<自立活動の関連項目>

- 3人間関係の形成（5）
- 6コミュニケーション（1）～（4）

<指導内容>

- ・ひらがなと絵カードの学習
- ・やりたいことを選択
- ・文字の学習

1 流れ図

<ケースの実態（特徴的な○長所、●課題）>

- 自分から挨拶する時がでてきた。
- 友達に自分が使っている玩具を渡せるようになった。
- ひらがな表で教員が言った音を指差することができる。
- 要求が通らない、予定と違うことがあると自分の頭を叩いたり、泣いたりすることがある。
- 自分の気持ちや要求を表現する手段がない。

<指導目標>

- ・ひらがな・絵カードの理解を深める。
- ・意思や気持ちを表出する場面を増やす。

<自立活動の関連項目> 「3人間関係の形成（5）」 「6コミュニケーション（1）～（4）」

<指導内容>

- ・ひらがなと絵カードの学習
- ・やりたいことを選択
- ・文字の学習

9月 「個別学習、学校生活全般」における指導の実際

指導内容	◆ひらがなと絵カードのマッチング ◆やりたいことを選択 ◆ひらがな学習
手立て	<input type="checkbox"/> 絵カードとひらがなのマッチング課題 <input type="checkbox"/> 色々な指導場面でひらがなカードを併用 <input type="checkbox"/> コミュニケーションボードの活用
評価（様子）	<input type="checkbox"/> ひらがなカード選択の正答率UP <input type="checkbox"/> 文字への関心UP（絵本の中のひらがな指差し等） <input type="checkbox"/> コミュニケーションボードを一部活用可能に
指導助言	○ウィークポイントの見る力UP ← 触る活動を！ ○ひらがな習得前の土台学習をたくさん行う。
改善点	●日常的に「見て触れる」活動を増やす。→色々な触感の教材準備 その際、カード選択で希望を尋ね、意思表出を促す。 ●ひらがなの課題が適切かを再評価

コミュニケーションボード

センサリーバック

お手玉

指導内容の見直し

2 「個別学習、学校生活全般」における指導の実際

9月はひらがなの理解を深める目的で、絵カードとひらがなのマッチング課題を実施したり、コミュニケーションボードを活用したりした。その実践の中で児童は文字への関心がアップしたり、コミュニケーションボードを一部活用できるようになったりした。しかし、他教員や講師の先生方から助言をいただき、学部検討を進めていく中で、I J君のウィークポイントや必要な学習課題が見えてきて、指導内容の見直しが必要であるという事が分かった。

A 部門小学部の実践

10月 「自立活動、各教科授業」における指導の実際	
指導内容	◆物を属性や用途によって分ける課題
手立て	<input type="checkbox"/> 個別自立活動の授業で、物を属性や用途によって分ける課題を行い、現状を再評価する。
評価(様子)	<input type="checkbox"/> 物を属性や用途によって分ける課題は難しいが、回数を重ねると正答率が高まった。(例、色の分類、食べものによる分類等)
指導助言	<input type="checkbox"/> 手先を使った課題はモチベーションが高い。 <input type="checkbox"/> ひらがなは手段としてはよいが、目標としなくてもよいのでは。⇒課題はコミュニケーション
改善点	●指導内容の追加・変更 ・物を属性や用途によって分ける課題 ・手指を使って教員とやり取りをする課題を通して、見る力やコミュニケーションを養う課題 ●課題が分かりやすい環境設定の継続



●色分けの課題



●リングのひも通し課題(手指を使う課題)



●個別課題の順番ボード

児童に合った適切な課題が明確に

3 「自立活動、各教科授業」における指導の実際

9月の検討を踏まえて、10月は対象児童の実態に合わせた学習内容に変更して実施した。ひらがなの学習の前段階として概念形成を促すねらいで、物を属性や用途によって分ける課題を行った。(色分けの課題等) また、「手指を使いながら教員とやり取りをする活動を通して、見る力やコミュニケーション力を養う課題」も取り入れたりした。その中で、改めて児童の実態に適した課題が見えてきました。

11、12月 「自立活動、各教科の学習」における指導の実際	
指導内容	◆物を属性や用途によって分ける課題 ◆各種操作課題
手立て	<input type="checkbox"/> 個別自立活動の授業(物を属性や用途によって分ける課題、手指を使いながら見る力やコミュニケーションを養う課題。 <input type="checkbox"/> 各教科において手順や見本を分かりやすく提示する など
評価(様子)	<input type="checkbox"/> 色の分類は一部できるようになったが、苦手な課題は意欲が低い。 <input type="checkbox"/> 教職員に自ら働きかける場面が増えてきた。
指導助言	<input type="checkbox"/> 学習課題の手順や見本を分かりやすく提示することが大事。 <input type="checkbox"/> 教員の働きかけに応えるような操作的な課題を取り入れると良いのでは。 <input type="checkbox"/> 図形の型はめなどで形の理解ができていないか見ても良い。 ⇒課題の中心はコミュニケーション
改善点	●指導内容の追加・変更 ・物を属性や用途によって分ける課題 ・手指を使って、見る力やコミュニケーション力を養う課題 ●学習内容や手順を児童に分かりやすく提示する。



●積み木課題(教員の指示通りに積む)



教員に水筒の片づけを依頼している



児童の発信力の向上がみられるように。



4 「自立活動、各教科の学習」における指導の実際

11~12月は9~10月の実践検討で得られた児童の実態に合わせた学習を継続しつつ、各教科においても手順や見本を分かりやすく提示するなどの工夫を行いながら、課題の中心にコミュニケーション力を養うことを据えて各場面で実践を重ねてきた。その中で児童の変化としては、自ら教員に働きかける場面が増えてきたことが挙げられる。例えば、スライドにあるように水筒の片づけを自ら教員に依頼するようになったり、他教室にいる看護師へ車椅子自走して行き、導尿ケアを依頼するような動きを見せたりするなど、も色々な場面で児童の発信力に向上がみられた。

まとめ



結果

- ① コミュニケーションボードを指差し、要求を一部伝えられるようになった。
- ② 物を属性や用途によって分ける課題は、種類や量を少なくしたり見本を見せたりすることで一部の課題はできるようになった。
- ③ 活動に見通しをもち、自ら教員に働きかけたり、教員の働きかけに応えようとする場面が増えてきた。

●コミュニケーションボード  ●本児が自発的に働きかける場面  ベッドを指差しして、排泄の手伝いを教員に依頼している

考察

- ① 日常的にコミュニケーションボードを使用することによって、習慣化が促された。
- ② 課題を継続指導する中で、色や形についての理解が深まった。
- ③ コミュニケーション力向上を目的にした日々の関わりを繰り返す中で、(活動時はボードを必ず使う、挨拶や発表時は自身の発声を必ず促す など) 本児が自ら考え発信する力や教員の働きかけに応えようとする姿勢・意欲が育ってきているのではないか。

●コミュニケーションボード使用中  ●図工の授業で、何をやるかを理解しようとしている様子のJ君 

4 まとめ

- <結果>①コミュニケーションボードを指差し、要求を一部伝えられるようになった。
 ②物を属性や用途によって分ける課題は、種類や量を少なくしたり見本を見せたりすることで一部の課題はできるようになった。
 ③活動に見通しをもち、自ら教員に働きかけたり、教員の働きかけに応えようとする場面が増えてきた。

- <考察>①日常的にコミュニケーションボードを使用することによって習慣化が促されたのではないか。
 ②課題を継続指導する中で、色や形についての理解が深まったのではないか。
 ③コミュニケーション力向上を目的にした日々の関わり(例えば…活動時にはコミュニケーションボードを必ず用いて児童の意思を引き出すようにしたり、挨拶や発表の場面では児童自身の発声によって行わせたりした)を繰り返す中で、教職員や友だちに意識を向けて受け答えする場面が増え、本児が自ら考え発信する力や教員の働きかけに応えようとする姿勢・意欲が育ってきているのではないか。


これらの結果・考察の中でも、最も重要な成果と言うべき点は③であろう。対象児童は元々、自己発信が少なく、要求が通らないと自傷行為をしてしまうような児童だった。それが、色々な経験の中で「自ら働きかけたり、教員からの関わりに応えようとするようになった。このことはつまり対象児童の「心の育ち、心の成長」がそのまま表れていると受け止めている。この成長は担任にとっても非常にうれしいことであるし、きっと今後の児童のコミュニケーション力伸張の原動力になっていくであろうと考えている。

まとめ (写真)

①②については継続し、自己発信力や物事の理解を深めていく。

③についても、色々な経験を積み重ねる中で、自分で考え働きかける力や自分の気持ちを調整する力を伸ばし、「自分が行うべき課題」を理解し取り組もうとする姿勢・意欲を育てていきたい。

次年度に向けて

●図工の授業で絵の具を手で直接接触して塗りたいのを我慢し、パニックを起こさずに気持ちを調整しつつ課題に取り組んでいるJ君 

5 次年度に向けて

- ①②に関しては継続し、自己発信力や物事の理解を深めていきたいと考える。
 ③については、上の写真に説明しているように色々な経験を重ねる中で、自分で考えて働きかける力や自分の気持ちを調整する力を伸ばし、「自分が行うべき課題」を理解し、取り組もうとする姿勢・意欲をさらに育てていきたいと考える。

A部門 中学部 1年 「CH」

自立活動 「実践現場から具体的な指導内容を設定するまでの流れ図」					
学年・学年	1年 1学期 1年 2学期				
指導の場	特別支援学級、特別支援学級、特別支援学級、特別支援学級、特別支援学級				
指導の場	特別支援学級、特別支援学級、特別支援学級、特別支援学級、特別支援学級				
指導の場	1. 指導の場	2. 指導の場	3. 指導の場	4. 指導の場	5. 指導の場
	6. 指導の場	7. 指導の場	8. 指導の場	9. 指導の場	10. 指導の場
指導の場	11. 指導の場	12. 指導の場	13. 指導の場	14. 指導の場	15. 指導の場
	16. 指導の場	17. 指導の場	18. 指導の場	19. 指導の場	20. 指導の場
指導の場	21. 指導の場	22. 指導の場	23. 指導の場	24. 指導の場	25. 指導の場
	26. 指導の場	27. 指導の場	28. 指導の場	29. 指導の場	30. 指導の場
指導の場	31. 指導の場	32. 指導の場	33. 指導の場	34. 指導の場	35. 指導の場
	36. 指導の場	37. 指導の場	38. 指導の場	39. 指導の場	40. 指導の場
指導の場	41. 指導の場	42. 指導の場	43. 指導の場	44. 指導の場	45. 指導の場
	46. 指導の場	47. 指導の場	48. 指導の場	49. 指導の場	50. 指導の場
指導の場	51. 指導の場	52. 指導の場	53. 指導の場	54. 指導の場	55. 指導の場
	56. 指導の場	57. 指導の場	58. 指導の場	59. 指導の場	60. 指導の場



<ケースの実態（特徴的な○長所、●課題）>
 ○褒められると喜ぶ。
 ○声や表情で気持ちを表現できる。
 ○物を介するとあまりなじみのない人でも関われる。
 ●大勢の前に出ると返事が出来ない。

<指導目標>
 ・みんなの前で返事や挨拶ができる。
 ・他者と関わることができる。

<自立活動の関連項目>
 3 人間関係の形成
 (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。

1 流れ図

A 部門 中学部 1年 CH をケースとして挙げた。
 (長所) 褒められると喜ぶ。
 声や表情で気持ちを表現できる。
 物を介するとあまりなじみのない人でも関われる。
 (短所) 大勢の前に出ると返事が出来ない。
 (指導目標) みんなの前で返事や挨拶ができる。
 他者と関わることができる。

9月 「他者との関わり」における指導の実際	
指導内容	風船バレー みんなの前で挨拶
手立て	 <p>他者との関わりが増える場面設定 看板を立てて、名前を呼んでから関わってもらおうように記載している。</p> 
評価(様子)	<ul style="list-style-type: none"> 他者と関わる場面が大幅に増えた。 初めての人にも、最初は緊張するが徐々に慣れてくる様子。
指導助言	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションが更に広がるよう、スイッチを用いてはどうか。 集団学習で落ち着いて参加することが課題。
改善点	【流れ図を更新し、他者との関わりに関してより具体的にする意向】 落ち着いて授業参加する方法を学部内で共有していく。

2 9月 「他者との関わり」における指導の実際

(指導内容) 風船バレー みんなの前で挨拶
 (手立て) 他者との関わりが増える場面設定を行った。看板を立てて、名前を呼んでから関わってもらおうように記載している。
 (評価・様子) 他者との関わる場面が大幅に増えた。・初めての人にも、最初は緊張するが徐々に慣れてくる様子。
 (指導助言) コミュニケーションが更に広がるよう、スイッチを用いてはどうか。
 集団学習で落ち着いて参加することが課題。
 (改善点) 【流れ図を更新し、他者との関わりに関してより具体的にする意向】
 落ち着いて授業参加する方法を学部内で共有していく。

A部門 中学部 1年 「CH」

実態把握	① 授業の形態、教員や生徒の状況、教材・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等について各自活動の状況に照らして整理する段階	② 改善した情報をもとに授業改善の観点から整理する段階
	③ 中心的な課題を導き出す段階	④ 中心的な課題を導き出す段階
指導すべき課題の抽出	⑤ 指導目標を設定する段階	⑥ 指導目標を設定する段階
	⑦ 具体的な指導内容を設定する段階	⑧ 具体的な指導内容を設定する段階
指導すべき目標	⑨ 指導目標を設定する段階	⑩ 指導目標を設定する段階
	⑪ 指導目標を設定する段階	⑫ 指導目標を設定する段階
指導目標を達成するために必要な項目の抽出	⑬ 指導目標を設定する段階	⑭ 指導目標を設定する段階
	⑮ 指導目標を設定する段階	⑯ 指導目標を設定する段階
具体的な指導内容	⑰ 指導目標を設定する段階	⑱ 指導目標を設定する段階
	⑲ 指導目標を設定する段階	⑳ 指導目標を設定する段階

<実態（特徴的な○長所●課題）>
 ○声や表情で気持ちを表現できる。
 ○物を介するとあまりなじみのない人でも関わられる。
 ●大勢の前に出ると返事が出来ない。
●やりとりには関係のない大声を出す。

<指導目標>
 ・他者と関わられるツールや場面を増やす。
・落ち着いて学習活動に取り組む



<自立活動の関連項目と、指導内容>
 「人間関係の形成（1）他者とのかかわりの基礎に関すること」
 名前を呼び、挨拶、他者と関わる。

3 流れ図の更新

<実態>

- （長所）声や表情で気持ちを表現できる。
物を介するとあまりなじみのない人でも関わられる。
- （短所）大勢の前に出るといつも出来ている返事が出来ない。
気持ちが高ぶった時に、やりとりには関係のない大声を出す。
- （指導目標）他者と関わられるツールや場面を増やす。
落ち着いて学習活動に取り組む

12月 「他者との関わり」における指導の実際

指導内容		落ち着いて学習に取り組む。 ・見通しをもちやすい学習内容。 ・興奮しそうな時に後ろから声をかけたり、右手を触ったりする。
手立て		いつも個別学習で使っている教材
評価（様子）	本人が親しみやすい教材を用いたことやSTの関わりにより、気持ちを落ち着ける場面が多くあった。	
指導助言	アイコンタクトで落ち着けるよう、声を止めるのではなく、同意、共感ができると良い。	
改善点	本人の親しみやすい教材を用いている場面は、落ち着いて授業参加できている。そのような題材設定や学習活動を部分的に増やしていく。	

4 12月 「他者との関わり」における指導の実際

- （指導内容）落ち着いて学習に取り組む。
- （手立て）見通しをもちやすい学習内容。
興奮しそうな時に後ろから声をかけたり、右手を触ったりする。
- （評価・様子）本人が親しみやすい教材を用いたことやSTの関わりにより、気持ちを落ち着ける場面が多くあった。
- （指導助言）アイコンタクトで落ち着けるよう、声を止めるのではなく、同意、共感ができると良い。
- （改善点）本人の親しみやすい教材を用いている場面は、落ち着いて授業参加できている。そのような題材設定や学習活動を部分的に増やしていく。

結果

・様々な人との関わりが増えた。
(スイッチでやりとりの幅を広げていくのは今後の課題)

・親しみやすい教材を用いると、集団学習でも
落ち着いて授業参加できる。

スイカパレー



考察

場面が変わったり、注目されたりすると苦手意識をもちやすいが
笑顔プロジェクトで行ったピアノはすぐに行うことができた。

馴染みがある題材や学習活動を取り入れる手立てが有効だと感じた。

まとめ (次年度に向けて)

個別学習→集団学習→日常生活に広がるような課題設定や
場面設定をしていく。(見通しをもちやすい設定をする)

個別学習



笑顔プロジェクト



5 まとめ

(結果) 様々な人との関わりが増えた。

(スイッチでやりとりの幅を広げていくのは今後の課題)

これが直接的に結びついている訳ではないかもしれないが、本児の課題としていた、摂食できる人が大幅に広がった。

親しみやすい教材を用いると、集団学習でも

落ち着いて授業参加できる。

(考察) 場面が変わったり、注目されたりすると苦手意識をもちやすいが笑顔プロジェクトで行ったピアノはすぐに行うことができた。


馴染みがある題材や学習活動を取り入れる手立てが有効だと感じた。

(まとめ：次年度に向けて)

個別学習→集団学習→日常生活に広がるような課題設定や

場面設定をしていく。(見通しをもちやすい設定をする)

B部門高等学部2年「HS」



<ケースの実態（特徴的な○長所、●課題）>

- 指示を聞いて応じることができる。
- 他害やパニックがなく比較的気持ちが安定している。
- 自分で終わりを判断して勝手に離席する。
- ダンスなどが始めるとその場所にいられない。

<指導目標>

- 良いところを生かして課題に取り組む。
- 好きな余暇活動を増やし、楽しみを見つけて健康に生活できるようにする。

<自立活動の関連項目と、指導内容>

充分な予告を繰り返し、やることの順番、終わりなどの見通しをもたせる。視覚的にわかる予定表、場所の写真、工程表などで補いながら、どこまでやったら好きなことをしていいか知らせる。

1 流れ図

<ケースの実態>（特徴的な○長所、●課題）

○指差しなどで意思表示ができる。○指示を聞いて応じることができる。

○他害やパニックがなく比較的気持ちが安定している。

●自分で終わりを判断して勝手に離席する。●ダンスなどが始めるとその場所にいられない。

<指導目標>


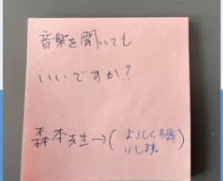
○良いところを生かして課題に取り組む。

○人のかかわりを持ち得意な指先を使った作業などで目標を達成し好きな余暇活動を増やし楽しみを見つけて健康に生活できるようにする。

<自立活動の関連項目と指導内容>

充分な予告を繰り返し、やることの順番、終わりなどの見通しをもたせる。視覚的にわかる予定表、場所の写真、工程表などで補いながら、やること、済んだこと、やっていいことを明確に示していく。自分勝手に終わらせず、どこまでやったら好きなことをしていいか知らせる。

12月 「日常生活の指導」における指導の実際

指導内容	1日の予定 振り返り 明日の予定など	
手立て	コミュニケーションボードや写真などを用意する。	
評価（様子）	隙を見て自分のやりたいことを行う間合いを図っている様子である。「約束」が守れたら褒める等の積み重ねで指導する。	
指導助言	どこかに行くときは、担任の先生の許可証などをもって行きたい所を示すのはどうか？ 休み時間、自由にしてよい時間を明示するとよい。	
改善点	自分の意思表示をするための物を担任に渡せるようにした。	

2 「日常生活の指導」における指導の実際

<手立て>

見て分かりやすい、コミュニケーションボードや写真などを用意し見通しがもてる手立てをする。

<評価（様子）>

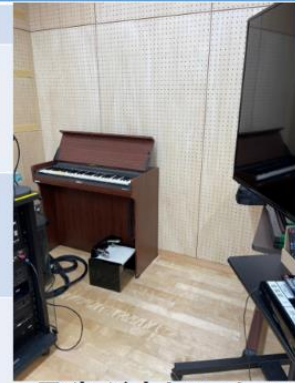
隙を見て自分のやりたいことを行う間合いを図っている様子である。ボードを指して「約束」などの動作をするとか「約束」が守れたら褒める等の積み重ねで要求してから行動するように指導する。

<指導助言>

どこかに行くときは、担任の許可証などをもって行きたい所に行くのはどうか？その都度カードなどでやり取りするのは難しいと思われるので一日の始めに本人のホワイトボードに日課カードなど貼って予定を確認しながら行ってはどうか。休み時間、自由にしてよい時間を明示するとよい。

<改善点>付箋などでもよいので、自分の意思表示をするための物を担任に渡せるようにした。

11月 「音楽」における指導の実際	
指導内容	鑑賞 歌唱 楽器セッション ダンス
手立て	行動の予告をする。十分に事前に予告することで本人が見通しをもって行動ができるよう支援する。
評価(様子)	ダンスが始まったらどこに行っているのか事前に繰り返し場所を見せて、教室を出ていくことがなくなった。
指導助言	行動の予告がとても役に立った。ただ、スキを見てその場から離れたり勝手に終了と決めてしまうところがあるため、予告が大切になる。
改善点	音楽で聞きたい曲への要求があったとき、今回はやらないということを明示する必要があった。



3 「音楽の授業」における指導の実際

<手立て>ことばや絵カードなどを利用し事前に予告することで本人が見通しをもって行動ができるよう支援する。

<評価(様子)>ダンスが始まったらどこに行っているのか事前に繰り返し場所を見せて、行動を促したところ、教室を出ていくことがなくなった。

<指導助言>行動の予告がとても役に立った。ただ、スキを見てその場から離れ自分の中で終了と決めてしまうところがあるため、自分で判断をする前の予告が大切になるので支援が引き続き必要。

<改善点>音楽で聞きたい曲への要求があったとき、今回はやらないということを明示する必要があった。また家庭科では作業の工程が終わった、と自分で判断し教室を出てしまった。工程表などを利用して終わりを明示する。

<結果>

家庭科の授業では、この列を刺繍したら終わりなどと伝え、見通しがもって続けることができた。仕事の終わりが見えると自分で勝手に終わりと判断して教室から走り出すことが見られた。

スウェーデンししゅう 作業記録表 月 日

手順	絵か写真	1	2	3	4	5	6	7	8	9
いとをえらぶ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
いとをきる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
いとをとおす (先生にたのむ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
たまむすび (先生にたのむ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
よくみてぬう	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
いとをきる	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
できた(先生がつける)	☺	○	○	○	○	○	○	○	○	○

<考察>

家庭科では工程チェック表などを、担当するSTが使うのもよい。教室では、行きたい場所の写真カードや、「行ってもよい」という担任の許可証(付箋)を持って出かけることができてきている。

<まとめ> (次年度に向けて)

来年度も、自分のしたいことをするためには、担任やその場にいる教師に提示カードなどで意思を伝えてから次の行動に移るなどの手段を重ねていくことを続けて定着を図る。

4 まとめ

<評価>家庭科の授業では、この列を刺繍したら終わりなどと伝え、見通しをもって続けることができた。作業の終わりが見えると自分で勝手に終わりと判断して教室から走り出すことが見られた。

<考察>高等部の全体指導の中ではなかなか難しいが、個別に見通しの持てる視覚支援の手立てが有効ではないか。家庭科では工程チェック表などを担当するSTが使うのもよい。言葉で伝えられない代わりに、別の手段で担任との意思疎通を図りどこかに出かけることができるという行動ができるようになってきている。自分の意思を相手に伝えて、相手の意思を確認してから別の行動に移るといった定着の力が伸びてきていると思われる。

<まとめ> (次年度に向けて)

来年度も、自分のしたいことをするためには、担任やその場にいる教師に提示カードなどで意思を伝えてから次の行動に移るなどの手段を重ねていくことを続けて定着を図る。